

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

「安全を守る秘密兵器」

長野県 諏訪市立城南小学校 5年 ^{ながたに}長谷 ^{すずか}鈴香

私の住んでいる諏訪市では、毎年、雨などにより道路が水びたしになったり、側溝から水があふれたりしています。大きな災害が起こらないようにするため、どんな工夫がされているのか知りたいと思い、夏休みを使って調べることにしました。

まず初めに、私の住んでいる諏訪地域で過去にどんな土砂災害が起こっているのかについて、図書館やインターネットを使って調べてみました。すると、令和3年8月に岡谷市、9月に茅野市と立て続けに土砂災害が起きていることがわかりました。この8月の土砂災害の時には、私もみんなで避難所に避難したので覚えていました。避難するだけでも怖かったのに、あの時実際に災害が起きていたと知って驚きました。2つの土砂災害はどちらも同じ山が崩れたもので、この山は地元では「西山」と呼ばれているそうです。私は、「西山は土砂災害が起こりやすいのかな？」と疑問に思いました。そこで、市役所の建設課で働いている父に聞いてみました。父は、「西山は急斜面で、過去に土砂が堆積した地形だから、大雨がふると崩れやすいんだよ」と教えてくれました。父からの話を聞いて、今度は西山で過去に土砂災害が起きた現場が現在どうなっているのか見に行ってみました。諏訪市湖南の「中の沢」という場所と、岡谷市の「大久保」という場所です。どちらも行く前に土石流が発生した時の写真を見ていきましたが、現在は土石流のあとは全く残っておらず、コンクリートで固めてありました。特に「中の沢」は小さな川だけど、ところどころ段々になっているところがたくさんありました。父は「これは落差工といって、土石流が流れてきたときに、この段差によって、少しずつ流れが緩やかになるんだよ」と教えてくれました。さらに山のおくに行くと、大きなコンクリートのかたまりがありました。「ダムみたい」と私が言うと、父は「これが砂防えん堤という、土砂災害対策の秘密兵器だよ。この砂防えん堤とダムのちがいは、水の貯水機能のちがいで、ダムは水を溜めるところだけど、砂防えん堤は土砂や流木を溜めて、水は下に流す仕組みになっているんだよ」と教えてくれました。普段は見えないところにあるからわからないけど、この秘密兵器によって私たちの生活が守られているんだなあと感じました。

家に帰ってから、父と一緒に、私が住んでいる地区のハザードマップを確認してみました。私の住んでいる地区は、近くの川があふれた時に50センチから3メートルくらい水がしん水する可能性はあるけど、土砂災害の危険性はなさそうだということがわかりました。土砂災害の危険性の高い場所としては山の近くや、山の水が流れてくる川や沢の近くがあることがわかりました。母の実家は山の近くで、家のすぐとなりには沢が流れています。もし大雨の時にはおばあちゃんとおじいちゃんに2階でねてねとアドバイスしたいと思いました。

今回土砂災害のことを調べるなかで、住んでいる地域の地形や山の地質によっても、土砂災害の危険性が変わることや、一度土砂災害が起きた場所には同じようなことが起きないようにいろいろな対策が行われていること、そして、誰が見ても分かるようにハザードマップなどで注意喚起していることがわかりました。毎年学校でも防災訓練があつて、通学路や近くの危険な場所を確認しています。だけど、普段生活している場所以外のところへ行っても、今回調べたことを生かしてハザードマップを確認したり、どんなことに注意したらいいのか、考えたりしようと思うようになりました。私たちの安全な生活を守るために行われている、いろいろな工夫や対策を知ることができて良かったです。